

ブルーム・ネクスト

代表者 大塚 観 月 （法学部法学科3年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、学内の環境美化改善活動にあてはまり、根底に大学を綺麗に華やかなものにしたいという信念がある。主要な活動として毎週火曜日朝7時半より既存の「ほうきの会」への参加や、大学境内でお花を植えている。また、大学行事へのお手伝い、SDGsを意識した取り組みなども行っている。私たちの活動を通して学生にとっても身近な団体にし、そして、地域から認知されるような団体にすることを最終目標に活動している。

2. 実施期間（実施日）

令和4年5月1日から 令和5年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

①火曜の朝7時半より行っている大学周辺の清掃活動

定期的な活動であり、ほうきの会に参加されている地域の方や大学関係者の方々、学長や副学長等々多くの方々が参加しており、参加者皆で仲良く活動している。

活動を通じて、地域に住む多くの方々とお話をする事ができた。携わってくれる地域の方々は魅力的な人が多く、年功者との会話は普段の生活に新たな気付きを与えてくれた。また、登校中の小中学生とコミュニケーションをとることができるなど、有意義な時間を過ごすことができた。



②大学菜園

ブルーム・ネクストをより多くの人に知ってもらうため、緑地活動を開始した。お花を中心に野菜や果物を植え、育てることで学内に緑が広がった。

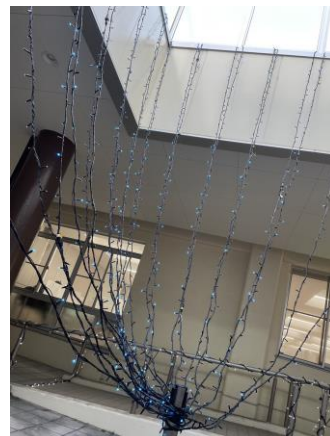
春を迎え、たくさんの植物が花を咲かせ、実を实らせている。自分たちの植えた植物を大きく育てることも今ではやり甲斐の一つになっている。学生や先生をはじめ、最近では来賓の方や受験生のご家族にもお花のことで声をかけていただくことも増え、認知度が高くなっているように感じる。



③イルミネーションの設置

クリスマスや大学入学試験に備えて、生協の方と協力し、オリスク下を中心にイルミネーションを設置した。

5限終わり食堂に足を運ぶ学生が写真を撮っている姿を見かけ、私たちの活動が学生に浸透し受け入れられていると実感した。他にも、大学の下見を行っている受験生や保護者の方にも興味を持って下さっていたようにも感じた。



④アサギマダラの飛来地づくり

新たな活動として、アサギマダラが好むとされているフジバカマを博物館前に植えた。荒地を耕し、河川敷で拾い集めた石で土台を作るところから始めた。

香川県ではアサギマダラの飛来地として峰山が有名であるが、香川大学もその一つとなるようにすることが目標である。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

私たちの活動を通じ、より豊かな学生生活が送れるような学内はもちろんのこと学外においても環境美化改善を行うことができた。清掃活動や緑地活動、ゴミ拾いボランティア活動、SDGsを取り入れた活動等の活動を通じて本学や地域にもたらした恩恵はであると認識している。

また、地域社会に影響を与えることは私たちの大きな目標であり、今年度も新型コロナの影響により、多活動を自粛せざるをえなかった時期もありましたが、感染対策を行い活動の幅を少しずつ広げることができている。そして、活動を通じて多くの方々から認識していただき、今後の土台となるような信頼関係の構築ができたと考えている。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

ブルーム・ネクストでの活動を通してよかったなと感じることは大きく2つある。1つ目は活動を通じて多くの人と出会い、本来なら関わることのなかったはずの年代・立場の方々を知り合えたことだ。携わってくれる地域の方々には魅力的な人が多く、年功者との会話は普段の生活に新たな気付きを与えてくれた。また、メンバーも個性豊かで愉快的な人が多く、何か他の部活、サークルと掛け持ちしている人も多い。互いに話を聞いて影響を受けることも多々あった。

2つ目は自分にできることをやってみるという勇気が持てるようになったことだ。私たちはコロナ禍で入学し、大学生活を制限された中で何かをやりたいと思う気力や勇気が低迷していた。そんな中で、自分たちにできることを継続して行うことで1つ目に述べたように人間関係が広がり、やってみようという勇気や原動力が生まれた。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点で一番にあげられるのが、新規の構成員の獲得が少なかったことである。他の部活やサークルの代表との交流会で、SNSを有効に活用できていないことをはじめ、情報発信に問題があることが分かった。今後は、SNS等をうまく利用し、活動報告を含め情報発信に力を入れる。ほかにも、他のサークルと連携して活動をすることで、新たな角度からの勧誘を進めていきたいと考えている。

活動を通し学校内、地域との繋がりは少しずつ広がっている。今後、地域から更に認知してもらい、いつかは必要とされる団体を作っていく。地域活性化が今後の社会的課題になることは明確で、私たちは大学生にできることは何があるのかを今後も考えていきたい。そして、基本的なことであるかもしれないが、今行っている活動を継続させたい。やる気のある仲間を集い、最終目標である地域から認知されるような団体にするための実現に向けて頑張っていきたい。

今後は、新規構成員の獲得はもちろん、コロナウイルスが緩和されたということで、学

外での活動を積極的に増やしていきたい。まずは、清掃でお世話になっている方が紹介してくださっている地域のボランティア活動に参加し、将来的には自発的なボランティア活動を開催したいと考えています。

7. 実施メンバー

代表者 大塚 観月（法学部3年）

構成員 山田 夏希（教育学部3年）

川崎 達哉（法学部4年）

中島 拓（教育学部2年）

田中 智美（法学部2年）

楠田 明穂（教育学部3年）

島 奈槻（法学部4年）

多富 優花（法学部2年）

8. 執行経費内訳書

配 分 予 算 額		1 4 9, 4 9 0 円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
Tシャツ	9	3, 8 0 4	3 4, 2 3 6	
お花			3 8, 8 5 4	
軍手	2 5		7, 7 3 0	
じょうろ	2	1, 3 0 8	2, 6 1 6	
竹ぼうき	1	5, 4 8 9	5, 4 8 9	
プラホーキ	5	1, 5 2 9	7, 6 4 5	
ポリ袋			8, 7 8 0	
アルペット手指消毒用	6	1, 9 6 9	1 1, 8 1 4	
ホワイトペン	3		1, 5 7 1	
麦わら帽子	2		9 8 9	
アルコールタオル			5, 8 1 8	
土	2 0		9, 8 4 0	
鉢底石	5		2, 3 1 0	
プランター			3, 3 4 5	
肥料			4, 1 5 6	
合 計			1 4 5, 1 9 3	